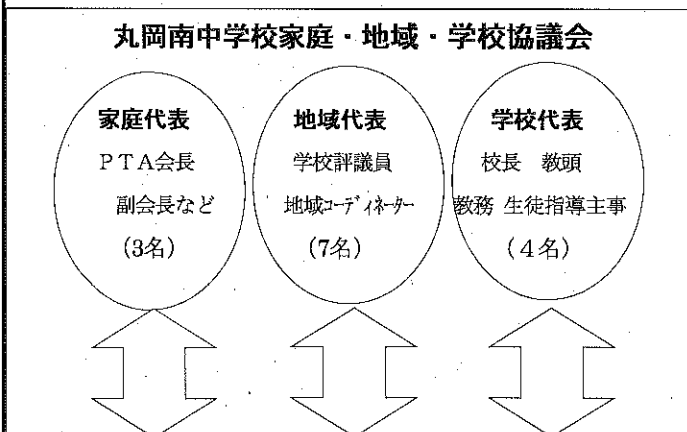


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立丸岡南中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



○回数 2回

○開催日程 6月 2月

○協議内容

- ・学校運営・評価に関すること
- ・地域の行事や活動への参加に関すること
- ・地域における課題や子育てに関すること 等

参画・説明責任 点検評価 説明責任
家庭 **地域** **学校**

*地域コーディネーター (3名)

まちづくり協議会員3名 (いずれも丸岡南中学校元PTA会長)

(2) 協議会の内容

- ・学校と地域における教育活動の現状と課題について
- ・学校と地域・PTAとの関わりについて
- ・地域と進める体験推進事業の進捗状況について

(3) 協議会における成果と課題

- ・家庭・地域・学校における中学生の様子について、それぞれの立場からの情報を交換することができた。
- ・学校関係者評価を行い、今後の本校教育活動の改善を図り、家庭・地域・学校が連携を図りながら、より開かれた地域に信頼される学校を目指すための具体的な方策について話し合うことができた。
- ・地域と進める体験推進事業補助金の交付終了に伴い、次年度以降の学校での教育活動で地域が関わる場合の必要経費を地域のまちづくり協議会より補助していただけることになった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ① 共々委員会の生徒や地域ボランティアに参加する生徒が、地域コーディネーターや地域行事担当の方と一緒に、ボランティアへの参加の仕方や地域行事を盛り上げるための活動について考え、全校生徒が積極的にボランティア活動や地域行事に参加できるようにすることにより、地域への愛着心を高める。
- ② PTA・学校行事である「南中秋まつり」を地域に開放し地域の活性化と地域に根ざした学校づくりをめざす。生徒会が中心となって企画を進める段階から地域コーディネーターとPTA役員に参加してもらい、生徒も大人も楽しめて、地域との交流ができる

ような行事を計画し、実行することにより、地域に開かれた学校づくりへの一助とするとともに、家庭・地域・学校が協力して教育活動を推進する。

(2) 活動の実際

①「地域へのボランティア参加による地域行事の活性化」

本校の生徒が部活単位で地域に出向いている「1部活動1ボランティア」を深める活動として、平成29年度より、地域の担当者と生徒が直接打ち合わせを行いボランティア活動に参加するようにしている。特に毎年行われている磯部体育祭では体育協会会長や役員とボランティアに出向く部の生徒達が体育祭を盛り上げる方法について話し合っている。また、体育祭の後は、体育協会の役員と生徒達が一緒に振り返りを行っている。

<体育協会と生徒の話し合い> <磯部体育祭での生徒の様子> <南中秋まつりに向けての話し合い> <南中秋まつり> <地域コーディネーターとのスクエア制作>



②「南中秋まつり」

学校・PTA行事である「南中秋まつり」では、生徒会と地域コーディネーターとPTA役員が「まつりを盛り上げ、多くの地域の方々に来校してもらうにはどうしたらよいか」ということについて話し合った。また、生徒会の「地域のブースを開設してほしい」という要望に地域コーディネーターが応じる形で「地域のブース」が今年度初めて南中秋まつりで開設された。「地域のブース」では、郷土食である「ごんぼ汁」を振る舞いたいとの生徒の要望で、地域の方々と生徒がごんぼ汁を調理し、来校者に提供した。また、地域コーディネーター達が中学校と地域の関わりを掲示物にして展示したり、ゲームを行ったりして盛り上げた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

学校と地域を実働的につなげる役割を担っている。1部活動1ボランティアでの生徒の様子を学校に伝えたり、学校に出向き生徒会担当の生徒達や担当の教員達と話し合ったりしながら、地域に開かれた学校づくりに向けて取り組んでいる。

(4) 特に工夫した事項

生徒や教職員と地域の方々、いずれも実際に活動に関わる者同士が直接話し合い、一緒に活動に取り組める機会を設定した。

(5) 成果と課題

県の「地域と進める体験推進事業」の指定を受けてから3年間、地域コーディネーターと学校の教職員や生徒が直接話し合いながら活動を推進していくことができた。特別なことをするのではなく、今まで取り組んできた活動を地域コーディネーターを始めとする地域やPTAの支援を受けながら深めていくことができた。また、補助金を受けられたことも活動の活性化に大きくつながった。事業は今年度で終了するが、地域とのパイプはより強化できた。特に校内で行う活動のうち、地域が関わる活動については各まちづくり協議会が今後も支援を続けてくださることになったことも、今回の事業の成果である。